



U-35委員会企画 talk baton 19 活動報告

talk baton とは…

若手プラットフォームづくりの活動の一環として、建築を取り巻く他分野のゲストがトークのバトンを繋げていくコミュニケーショントークイベントです。

建築をフィールドとする私たちと毎回のゲストとの対話を通じて、建築が本来持っている多様性やバイタリティを見つめ直し、これからの建築に求められる領域を探っていきます。

U-35委員会Facebookページ

活動内容やメンバーの雑感などざっくりばらんに情報をアップしています。ぜひ一度お立ち寄りください。

<https://www.facebook.com/U35.aaj>



トークバトン当日の様子 加賀氏と写経持つ参加者



寺社建築という言葉もあるとおり、建築と仏教は密接に関係している。しかし今回のトークバトンでは、建築様式としての仏教に焦点を当てるのではない。日常生活の中にある仏教に注目してみたい。今回のゲストである加賀氏は三津寺の副住職を務める傍ら、仏教の新しいあり方に挑戦し宗派を超えた僧侶たちの団体であるフリースタイルな僧侶たちの代表も務める。既成概念に執着することなくお寺・仏教の新しいあり方を見つめ直す加賀氏の活動に迫りたい。

■カオス（混沌）とコスモス（秩序）—そもそも宗教とは

加賀 まずは皆さんのことを知りたいと思います。今、皆さんが日常何をされているのか、自己紹介を兼ねて、最近のカオス（混沌）とコスモス（秩序）を教えて頂けたらと思います。

— 仕事、家庭、子供、飲み会、結婚、介護などそれぞれが自身の私生活になぞらえながら最近のカオスとコスモスを織り交ぜて自己紹介を行った。

加賀 仏教についてお話する前に「宗教って何のためにあるのか」というところからお話していこうと思います。私はお寺の生まれではありますが、昔からものづくりが好きなこともあり京都大学地球工学科へ入学しました。大学に入ると燃え尽き症候群というんですね、ふと目標を見失い、麻雀とバイトに明け暮れる日々でした。そんななか、たまたま障害を持った子供達と富士山に登る機会があり、子供達の純真な心に自分の今までのものの見

方に対して色々気づかされました。そこで自分の生き方をもう一度見つめ直そうと思い、自分のルーツであるお寺で修業をしました。1年間の修行中にすっかり仏教の世界観に魅了され、現在は三津寺の副住職として仏事を行っています。

先ほど、皆さんのカオスとコスモスをお聞きしましたが、あくまで平和における日常のカオスなんです。私は宗教というのはカオスとどう向き合っていくかがスタートになっていると思います。仏教が生まれた2500年前は、自分ではどうにでもならない戦争・病気・天災など、日々生と死に向き合っているような状況でした。このような状況をなんとかコスモスの状態に近づけ自分を理解させるために宗教が生まれてきたのではないかと思います。

■物語と哲学—宗教特性の違い

加賀 宗教の特性には2つあると思っています。「物語性と哲学性」です。例えば、ユダヤ教徒は神様と契約している選ばれた民族なのだ、神様は私たちが聖なる民族であるかどうかを試すためにいろんな試練を与えてくるのだと、そんな大きな物語を創りアイデンティティを確立し、混沌した状況から秩序を作っていたんですね。ヒンズー教、キリスト教、イスラム教など、また日本には神道があります。これらは物語性の宗教です。物語を作ることによって、自分たちに起こる様々なつらいことを理解させていこうという考え方です。自分たちの物語を中心としているため世界観も違うわけで、その物語は間違っているなど、宗教間の争いも生まれるわけです。

一方で仏教はちょっと雰囲気は違います。仏教は、生きる哲学と言われたりしますが、自分に起こる様々な悲劇、苦しみをしっかり見



加賀氏の副住職としての活動 護摩焚きを行う様子

Member's Forum

会員投稿の頁

つめ分析し、その原因を追求していこうといった宗教です。仏教の哲学というのは誰でも実践できます。キリスト教であるから座禅ができません、座禅をしたのでキリスト教を抜けてくださいということにはならないわけです。これが物語を中心とし自分のアイデンティティを確立している宗教と哲学を中心にしている仏教の違いです。

参加者 仏教以外で哲学を中心としたものはないのでしょうか？

加賀 私が知る限りはないと思います。仏教にすべて集約されているのかなと思っておりまう。仏教はその地域ごとの哲学を吸収しながら、大きくなっていきましたので、そういう意味合いで建築とも近いのかなと思っております。また、日本は宗教のサラダボールなんていわれたりしますが、宗教に対して非常にカジュアルで特徴的ですよ。ただし、どの宗教も同じですが向き合ったものに対してはやっぱり真摯に向き合わなければいけないですし、それぞれの宗教に対して真摯に向き合っている人がいるということを決して忘れてはいけないと思います。

■仏教における真理―「無常苦無我」

加賀 宗教は「儀礼と真理」この2つの側面を持っています。例えばキリスト教には安息日があります。神様との契約なのでこの日は絶対休むわけです。安産祈願、七五三、お祭など、日本では宗教的に大切な儀礼イベントがありますね。

真理とは哲学を突き詰めていった先にあるもので、私たちが体験している法則、統一のルールが世の中にはありますという考え方です。ちなみに皆さんに質問ですが建築における真理とはなんでしょう？



フリースタイルな僧侶たち 歴代代表の皆様

― 加賀氏の問いかけに、一同が沈黙した。(建築における真理が理解できれば、良い建築もおのずとわかるのであろうか。)

加賀 難しいのは仏教もそうですが、哲学を持っているものという意味で、私は仏教と建築は非常に考え方が近いのではないかと思います。時代のルールやニーズによらない変わらないものを真理といいます。仏教における真理はなにかというと「無常苦無我」です。仏教においても、服装や作法などの儀礼は少しずつ変わってきていますが、真理というものは変わっていません。

「無常」は一瞬でも同じ状態がない、常に物事はうつり変わっていくことを指します。例えば、昨日の皆さんと今日の皆さんは違いますし、もっと言えば、今発言している私と発言し終わった私とは、ちょっと違うんですね。無常の世界が仏教のベースになっています。でも、私たちはその無常の世界観を頭で理解していても心で理解できないので様々な苦しみや日常生活で享受しているんですね。「苦」の代表は老、病、死、生。自分の思い通りにならない4つの苦しみがあります。「無我」とは、私たちは一人だけで生きているわけではない、私という存在があるのは父と母がいたからで、もっと言えば、ここに床があって、この衣服を着ているから、今日、皆さんの前にこうしてお話ができているわけです。

つまり、「無常苦無我」を頭でわかるだけでなく、心でちゃんとわかるためにはどうしていきましようかということを経験的に解説するのが仏教です。おそらく、皆さんが想像していたキリスト教などの物語系の宗教とは少し毛色が違うかと思います。ただ、心でわかるためには哲学だけでなく、仏教の儀式儀礼、目に見える仏像を作り世界観を理解すること



フリースタイルな僧侶たちの活動 フリーペーパーを配る加賀氏

も必要で、仏教の中でも様々な宗派やお経が生まれたりします。

― この後、仏教の教えである「貪と瞋と痴、分析と直感、空と仮と中、自利と利他と不二、戒律と禅定と智慧、深信と修行」について加賀氏から有難いお言葉を学ばせて頂いた。

■“U35”と“フリースタイルな僧侶たち”

参加者 加賀氏は「フリースタイルな僧侶たち」というグループ活動を行っていらっしゃると思いますが、宗派を超えて若いお坊さんが集まって活動している点と、私たちU-35委員会の活動について、共通点もあるように感じています。活動について少し伺いできますでしょうか？

加賀 なぜ若い人たちが集まるんでしょうかね？ 仏教団体にも青年会がありますが、最近では若い方が少なく、その会を存続させるのが目的になっていてよくわからない状況になってますよね (笑)。

参加者 U-35委員会も日本建築協会内の組織ですが、若手の建築業界の横のつながりを作り、視野を広げるためのプラットフォーム作りを目的としてスタートしました。私たちの活動であるトークボタンは建築分野だけで集まるだけでなく、さらに視野を広げていくためにはどうすればよいかということを考え、このように他分野のゲストの方々とお話を



発行されているフリーペーパー

行っています。

加賀 どの業界も同じかもしれませんね。落ち着いて安定し秩序だってくると、今度はその秩序が不安になってくる。そこで、何か他のものを取り入れてカオスな状態に引っ掻き回し、先ほどの秩序は本当にあったのかを確認するみたいな。年齢を重ねてくると安定しきってしまい、積み上げてきた秩序を壊すことが怖くなってくるんですかね。若いうちはそれを壊すことを厭わないというっていうのは1つあるかもしれません。破壊神みたいな（笑）。

お坊さんの業界は特にそう思いますね。今までこういう風にやってきたからといって秩序が完成してしまう。一方で、仏教というのは無常を説くわけですね。こっちが安定してしまっても、向こうが変わっていくわけですから、やはりこちらも変わっていくかなきゃいけないのに、なかなか壊せないという。フリースタイルな僧侶達のスタートは本当にそうなんです。仏教の布教というのは、お勤めなど決まりきったことだけだったわけですね。お坊さんと檀家さんとの関係も決まりきったものになっていました。でも時代と共に、檀家さんの方がちょっとずつ変わってくるわけですよ。お坊さんの団体がフリーペーパーを作って道で配るなど、当時はみっともないことを始めてという批判もあったと思いますが、仏教だって外への視野を広げる必要があると私は思っています。

一方で外のものを入れていくことに危険な面もあって、真理を見失うことだと思います。仏教というのは無常苦無我っていう絶対的な真理があって、その上に物事を組み立てていかなければいけないのに、新しいものを作ってみた結果、それが真理から道を外れたもの

になってしまうことは気を付けないといけません。だから各業界には、絶対的な真理として先輩たちがいて、その下にカオスを取り入れようと現場に寄り添った若い方たちがいるといった構図になるのかもしれないですね。私はフリースタイルな僧侶たちの3代目代表ですが、代を経るごとにその意識が薄れてしまっているというか、破壊神側にも秩序ができてしまっているんですね。

参加者 U-35委員会も活動始めて9年目で、正にフォーマットしてきている部分が悩みでもあり今後の課題かなと思っています。

■絵写経体験

加賀 本日、皆様に写して頂くのは不動明王様という仏様です。この仏様は煩惱を縄で縛り、背中の炎で焼き尽くしてくれる。荒波の中で先頭に立って私たちが進むべき道を示しているというのがこの仏様のお姿です。また、お経はさまざまな悪行を反省しますと書かれています。アンダー35歳の皆さんは懺悔することも多いだろうと思いこの絵写経を選びました（笑）。しんどいなと思ったとき、そのことをしっかりと自分で見つめ、何が原因なのかを理解するというのが、仏教や哲学、瞑想のスタートになっています。この写経を通して、今自分が何を見つめているのか自分の中でしっかりと理解して頂ければと思います。——加賀氏の儀礼の中、それぞれ写経を行い、あつという間に30分が過ぎた。

加賀 皆さんが書かれたものは世間的な上手下手はあるのかもしれませんが、結局は自分自身が目の前に現れているわけです。その書いたものに対して、もう少しこうしておけばよかったと思うこと含めて出来上がったものなのです。今日書いたものと明日書いたもの

のは必ず違うわけで、今描かれた自分のものをしっかりと受け止めてあげたらよいと思います。

■一滴潤乾坤

加賀 最後に私が好きな仏教の言葉をお伝えしたいと思います。イッテキケンコンウルオスと読みます。一滴の水でも乾いた土を潤す力があるという意味です。例えば、夏の暑い日に雨がサーッと降って葉っぱから一滴の水がポトッと落ちる。それを見て私たちはなぜかすがすがしい清涼感を感じるわけです。その一滴の水が大雨に匹敵するわけです。一方で、その一滴の水は土に吸収され、湧き水になって川に流れて、そして海に注がれ、大海の一員になるわけですね。でまた大海から水蒸気になって、雨になって山に降ってまた一滴となるわけですね。本日のトークバトンを通じて、色々なお話をさせて頂きました。私のお話が一滴となり皆様の心の中の水が足りていない部分に少しでも降り注いでいたらいなと思って、本日の会を終了したいと思います。

参加者 貴重なお話をありがとうございました。（文責：水野）

talk baton 19 を終えて

日々目まぐるしい世の中でしっかりと自分を見つめ直すコスモス（秩序）の大切さと、外のものを受け入れカオス（混沌）を取り込む勇気を貰いました。地域の文化や哲学に根付く仏教と建築には共通点もあり、また、加賀氏が行っている活動からU35での活動の意義も改めて感じることができ、新しい知見を得るため他分野からのインプットというトークバトンの目的として有意義な会となりました。

対 談 日：2021.07.24

場 所：三津寺 墓地 松林庵
（大阪市中央区）

モデレーター：水野裕介（大成建設）



三津寺様ではお勤めの一つとして絵写経の会を行っている



参加者が実際に写経・写仏した不動明王像